誌上行学講習会

高佐日煌上人

「（一）不死永遠の生命を求めることが、医術、薬方、保健、衛生の文化を発達させ」

これはお互いが現実に経験していることでありまして、昔は厄病つまり流行病がはやるといえばおまじないか御祈禱をする位しか方法がなかった。今は医術薬方として正確に受け止めて行くことが出来るようになりました。更に積極的に保健衛生の術も発達いたしまして、第一病気にかからないようにするところまで参りました。そういう文化が進んだのは、人間が死にたくないという欲をもっていたからであります。生命が惜しいから生命を護るという文化が発達したのであります。

「また久遠の仏陀観を成立させ、それに依る成仏観を成立させた」

一体、成仏という仏に成るということをどう考えているでしょうか。死んだ人を仏といっているがそれは大変なまちがいなのであります。世にまちがいは多くあっても此れ程の大きなまちがいはない。仏に成るという仏とは、ものの解った人、悟りを得た人という意味で、仏陀を訳すと覚者（かくしゃ）になります。即ち悟った人、気のついた人、眼のさめた人ということで、死んだら一体気がつきますか、眼がさめるか、かりに眼がさめた気がついたといってもおそすぎるではないか、生きている中にさんざん悩んでいて、死にたくない等と言っていて死んでから仏になる、気がつくなどとはまさに証文の出しおくれであります。気がつくなら此の世で気がつかなければならない。その気のつき方は「我々の生命は死なないのだ」ということでありまして、それを久遠の仏陀の自覚というのであります。そこで「我々は確かに死なない生命なのだ」ということが分かることを成仏というのであります。

「此の問題は日蓮教学でなければ解決しない」

たしかにその通り、日蓮仏教以外には考えていないのです。世界に誇る唯一絶対の宗教であるというのはその為であります。どうかしっかり学び取っていただきたいと思います。

「（二）無苦安楽の生活を求めることが、農業、漁業、牧畜、林業、礦業、工業、商業、建築、園芸、美術、工芸、衣料、音楽、演芸、娯楽、交通、通信に関する文化を発達させ、また娑婆即寂光土の思想を成立させた」

娑婆即寂光土というのはこの世は極楽だという事であります。どうみても極楽に見えないのに極楽だという。何故極楽かということは私の秘術にしたがえば良く解ります。私の秘術によるとまるでそのように、この世ががらりと極楽になってしまうのです。こうなれば、我々は理想の世界を遠くに考える必要はなくなり、眼の前で只今ここで極楽浄土に住んでいることに気がつくのであります。ですから「此の問題も日蓮教学でなければ解決しない」と言へるのであります。

文化ということでもう一つつけ加えておきますが、文化は確かに人間の幸福をもたらします。シャツにしても今は洗ってもすぐかわき、アイロンもいらない。洗ざいも白元とかいって極めて真白によく洗い落ちる。電気の発達は昼夜を分かたずというところまで来ている。交通機関も飛行機が出現、それも今やジェット機。日本からアメリカ迄十五時間で行ってしまうというめざましい文化の発達であります。ただし飛行機は落ちるという危険性をもっています。此の危険性を全く払いのける方法はどうか。あるんです。絶対安全だという飛行機に乗る手がある、これが私共の秘法、秘術で解るのであります。

以下次号に続く